

炎の預言者

シリーズ～預言者の声～

2022/6/26

南王国の王たち(後期)

アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見た幻。これはユダの王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの治世のことである。(1:1)

名前	治世	
ウジヤ	52年	善王／領土回復・経済的繁栄 →王の高ぶり・民の墮落
ヨタム	16年	善王／民の墮落は続く
アハズ	16年	悪王／バアル礼拝・幼児犠牲 アラム・北王国によって攻められる アッシリア帝国も攻めてくる
ヒゼキヤ	29年	善王／宗教改革 アッシリア帝国の攻撃

イザヤ書6章～イザヤの召命～

ウジヤ王が死んだ年のことである。わたしは、高く天にある御座に主が座しておられるのを見た。衣の裾は神殿いっぱい広がっていた。上の方にはセラフィムがいて、それぞれ六つの翼を持ち、二つをもって顔を覆い、二つをもって足を覆い、二つをもって飛び交っていた。彼らは互いに呼び交わし、唱えた。「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う。」この呼び交わす声によって、神殿の入り口の敷居は揺れ動き、神殿は煙に満たされた。

わたしは言った。「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は／王なる万軍の主を仰ぎ見た。」するとセラフィムのひとりが、わたしのところに飛んで来た。その手には祭壇から火鉢で取った炭火があった。彼はわたしの口に火を触れさせて言った。「見よ、これがあなたの唇に触れたので／あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」

そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」

主は言われた。「行け、この民に言うがよい／よく聞け、しかし理解するな／よく見よ、しかし悟るな、と。この民の心をかたくなにし／耳を鈍く、目を暗くせよ。目で見ることなく、耳で聞くことなく／その心で理解することなく／悔い改めていやされることのないために。」

わたしは言った。「主よ、いつまででしょうか。」主は答えられた。「町々が崩れ去って、住む者もなく／家々には人影もなく／大地が荒廃して崩れ去るときまで。」主は人を遠くへ移される。国の中央にすら見捨てられたところが多くなる。なお、そこに十分の一が残るが／それも焼き尽くされる。切り倒されたテレビンの木、檜の木のように。しかし、それでも切り株が残る。その切り株とは聖なる種子である。

主の神殿の幻

- 主の姿を目撃したイザヤ
 - 「わたしは、高く天にある御座に主が座しておられるのを見た。」
- 飛び交っていた「セラフィム」
 - 「それぞれ六つの翼を持ち、二つをもって顔を覆い、二つをもって足を覆い、二つをもって飛び交っていた。」> 覆うのは神への畏れを象徴
- 「聖なる、万軍の主」
 - 「聖なる」は本書で36回使われる「分ける」の意
 - 主なる神が、神以外の一切のものから隔絶されているという意味。超越性や唯一性を表す

イザヤの召命

- 死を覚悟するイザヤ

- 「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は／王なる万軍の主を仰ぎ見た。」
- 汚れた唇の者が主を見てしまい、死を覚悟した

- 清められたイザヤの唇

- セラフィムが祭壇から取った炭火をイザヤの口に触れさせた＞汚れが焼き尽くされた
- 「見よ、これがあなたの唇に触れたので／あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」
- 「炎の預言者」の誕生！

遣わされるイザヤ

• 主からの問いかけ

- わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」
- 聖なる神は汚れた人間に直接関われないから

• 即答するイザヤ

- わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」
- 唇の汚れをきよめられたイザヤは即答した

• なぞの命令

- 「行け、この民に言うがよい／よく聞け、しかし理解するな／よく見よ、しかし悟るな、と。」

「よく聞け、しかし理解するな」

- 新約聖書で5回も引用されている言葉
 - イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用いて話すのだ。それは、『**彼らが見ても見えず、聞いても理解できない**』ようになるためである。」ルカ8:10 > **たとえで話す理由**
 - 彼らが互いに意見が一致しないまま、立ち去ろうとしたとき、パウロはひと言次のように言った。「聖霊は、預言者イザヤを通して、実に正しくあなたがたの先祖に、語られました。『この民のところへ行って言え。**あなたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。**』使徒28:25-26 > **イスラエルの民が拒絶する理由**

「よく聞け、しかし理解するな」

- 新約聖書で5回も引用されている言葉

- イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用いて話すのだ。それは、『**彼らが見ても見えず**』である。

- 彼らとして、霊は、あなたがたの先祖に、語られよした。』この民のところへ行行って言え。**あなたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。**
使徒28:25-26 > **イスラエルの民が拒絶する理由**

真理は心から主を求める者にのみ明らかにされる。だから聞いただけで理解せず拒絶したとしてもそれは仕方のないことである

厳しい現実

- イザヤが直面する現実

- 「この民の心をかたくなにし／耳を鈍く、目を暗くせよ。目で見ることなく、耳で聞くことなく／その心で理解することなく／悔い改めていやされることのないために。」

- 民が悟るときは来るのか？

- 「主よ、いつまででしょうか。」

- 「切り株」になるときまで

- 「町々が崩れ去って、住む者もなく」>「主は人を遠くへ移される」>「そこに十分の一が残るが／それも焼き尽くされる」>「それでも**切り株**が残る」

遣わされる預言者として

- 唇を清め、言葉を与えるのは主である
 - 「見よ、これがあなたの唇に触れたので／あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」
- 主は遣わすべき者を探しておられる
 - 「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」
 - 「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」
- 簡単にうまくいくわけではないけれど…
 - 「よく聞け、しかし理解するな／よく見よ、しかし悟るな」